

# 社場たより



# きまべつ

平成30年7月号

社会福祉法人  
喜茂別町社会福祉協議会

〒044-0201  
虻田郡喜茂別町喜茂別15番地の1  
電話 (0136) 33-3024  
IP電話 33-3024



喜茂別社協では、高齢者自身や介護されている家族に向け、家族介護支援事業「尿もれ予防講座」を実施しました。困っているけれど、なかなか人には聞けないデリケートな問題を、看護師・シニアインストラクター、福祉用具専門相談員らがわかりやすく解説してくれました。

今後も介護に必要なケアの知識や技術をお伝えしていきたいと思っております。



社会福祉協議会では、希望する方に随時歩行杖の貸し出しを行っておりますので、気軽にご連絡ください。

後志建設工業株式会社  
(代表取締役 本久公洋)  
様より、歩行杖とアイスピックの寄付がありました。有効に活用させていただきます。

善意に  
感謝します

この広報は共同募金の配分金で作成しています。



共同募金

# 平成29年度 決算報告

## 資金収支計算書

自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日

勘定科目(大)		決算額	勘定科目(大)		決算額		
経常活動による収支	入	会費収入	648,500	施設設備等による収支	固定資産売却収入		
		寄附金収入	344,160		施設設備等収入計(4)	0	
		経常経費補助金収入	14,498,641		固定資産取得支出		
		受託金収入	47,322,734		施設設備等支出計(5)	0	
		貸付事業等収入	287,883		施設設備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	
		雑収入	37,816		その他の活動による収支	積立資産取崩収入	9,624,000
		受取利息配分金収入	5,113			その他の収入	
		経常収入計(1)	63,144,847			財務収入計(7)	9,624,000
		出	人件費支出			54,506,893	積立資産支出
	事務費支出		12,118,111	その他支出			
	事業費支出		6,174,678	財務支出計(8)		3,558,000	
	貸付事業等支出		369,883	財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		6,066,000	
	共同募金配分金事業費		499,236	予備費(10)			
	負担金支出		389,669	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 5,147,430	
	その他の支出		299,807	前期末支払資金残高(12)	3,326,787		
	経常支出計(2)		74,358,277	当期末支払資金残高(11)+(12)	△ 1,820,643		
	経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		△ 11,213,430				

## 貸借対照表

平成30年3月31日現在

資産の部		負債の部	
[流動資産]	2,509,378	[流動負債]	4,330,021
預貯金	379,136	未払金	795,925
未収金	2,130,242	預り金	3,534,096
		前受金	0
[固定資産]	15,927,692	[固定負債]	6,476,160
基本財産	1,000,000	退職給与引当金	6,476,160
基本財産特定預金	1,000,000	負債の部合計	10,806,181
その他の固定資産	14,927,692	純資産の部	
建物	417,196	[基本金]	1,000,000
車輛運搬具	79,171	基本金	1,000,000
器具及び備品	164,301	基金	0
ソフトウェア	162,000	元入金	0
退職給付引当資産	10,505,850	[その他の積立金]	4,094,674
貸付事業資金貸付金	858,100	福祉積立金	2,766,074
福祉積立預金	2,741,074	貸付事業資金積立金	1,328,600
		[次期繰越活動収支差額]	2,536,215
		うち当期活動収支差額	△ 12,407,636
		純資産の部合計	7,630,889
資産の部合計	18,437,070	負債及び純資産の部合計	18,437,070

脚注 1. 減価償却費の累計額 10,448,840円

## 平成29年度 事業経過報告

近年、人口減少や経済情勢、雇用形態などの社会構造の変化、世帯規模の縮小、単身世帯の増加等を背景に、家族や地域の支え合い機能が低下しております。地域においては、社会的孤立や虐待、経済的困窮、貧困の世代間連鎖など、従来の福祉制度の枠組みだけでは捉えられない多様で深刻な課題が増加しています。

全国を上回るスピードで少子高齢化、人口減少が進んでいる我町においても、今後も福祉人材不足が深刻化されるなか、サービスの質と量を確保していくことが極めて重要な課題となっています。

こうした中、社会福祉協議会においては、行政や関係機関、地域住民との連携や協働により、地域福祉を推進する団体としての役割を果たし、地域の「互助」の力の強化に向けた取り組みを積極的に行っていくことが求められます。

平成29年度、社会福祉協議会では、住民の理解と協力をいただき、評価される事業展開と支援を得られる活動を目指し、事業に取り組んでまいりました。

なお、基本計画達成のため実施した各事業の実施内容は下記のとおりであります。

### 社会福祉協議会基盤整備の確立

地域住民の協力により、組織の強化を図る基盤整備につとめてまいりました。福祉活動の裾野を広げるため「社協だより」「社協通信」の発行、おしゃべり回覧版等を利用し各種行事のPRなど将来ある組織の強化にむけた、情報の提供を行いました。

### 共同募金運営事業

地域の福祉を支える上で共同募金、歳末助け合い募金は大変重要な意義をもっています。運動の趣旨を地域の皆様にご理解願ひまして、福祉活動充実のため、ご協力いただきました。

29年度も「きもべつ夏まつり」会場において募金活動を実施いたしました。

### 地域福祉活動事業

障がい者の社会参加を促しノーマライゼーションを定着したものにするための活動として、33回目のふれあい広場・健康まつりをふれあい福祉センターにおいて、実施してまいりました。

### 介護保険デイサービス事業

介護保険通所介護事業を引き続き、町から委託を受け運営にあたっており、行政と連携し、地域に住み続けることを目標に事業を確立してまいりました。

### 愛情資金貸付事業

生活支援することによって、その人らしくよりよい生活と人生を送られるよう、困っている人に有効に活用してもらいました。

### 地域支援事業

一般介護予防事業において、介護保険制度だけではカバーできない生活支援体制を整備し、自主活動サークル等が軌道に乗り、参加者同士の支え合いにより、通いの場への定期的な利用に繋がってきました。ウサパラ元気体操教室では、運動機能向上、口腔機能の向上、栄養改善を柱とする通所型の介護予防事業を様々なメニューを取り揃え参加者の自立を促し、健康寿命の向上に努めております。また、閉じこもり防止と友愛活動として外出支援事業を、年6回、趣向を変え展開しております。同じく、『生活用品買出し事業』を年6回行い、倶知安町へ行っております。

### 在宅福祉事業

IP電話を活用した独居高齢者等の安否確認を行うとともに高齢者宅を訪問し、生活指導や見守り活動等を行ってきました。また、訪問等、見守り活動を通じて、地域住民のニーズに基づいた生活課題の把握に努めてきました。地域包括支援センターと連携し、住民参加型高齢者生活支援事業を推進するとともに地域における互助の機運を高める為、「地域サロン」の展開をしてきました。

また「安心カード」の加入促進活動を継続的に行っております。

## 平成30年度

## 喜茂別町社会福祉協議会事業計画

## 1 基本方針

今後の地域支え合いの再編を目指す「地域共生社会」の実現に向け、制度・分野ごとの縦割りや、支え手、受け手という関係を超えて、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり、他機関協働による総合的な相談体制づくり等、地域福祉を軸とした国の施策の方向性が示されています。

中でも「我が事・丸ごと」の地域づくりは、市町村による包括支援体制等を構築する試みであり、まさに、喜茂別町社協が取り組んできた方向性に合致するものです。

こうした中、社協への期待がますます高まるものではありませんが、新たな地域福祉施策における仕組みづくりの担い手は、社協に限定されるものでなく、地域には社協に代わる組織が多数存在していることを認識し、地域住民と向き合い、関係機関と連携し、さらに町と協議を図りながら危機感を持つて対応していかなければなりません。社協本来事業である小地域福祉活動の充実・強化は急務と言えます。

さらに、社協の特性を活かした総合的・横断的な展開ができるような組織体制づくりや、あらゆる生活課題への解決力を高め、社協の存在意義を積極的に発信していく必要があります。

同じ町に住んでいても町内会（地区会）が変われば考えも変わる、住民から課題を「丸ごと」吸い上げ、社協が地域の課題整理し、地域ごとに異なる課題を住民に「我が事」として捉えなおしてもらうための機会と活動に取り組みきつかけを作る仕事福祉活動専門員（CSW）で徹底したアウトリーチ活動を展開し、他職種（包括支援センター・生活支援コーディネーター・民生委員等）と連携し事業を推進していきます。

## 2 事業の推進について

スローガン

「地域の絆でつながる笑顔、

広げよう安心の町、きもべつ」

スローガンを大目標として、高齢者、障がい者、子ども等、誰もがお互いを助け合いながら、共に暮らすことができる安心の町、きもべつ、を目指し活動いたします。

住民主体の理念が、社会福祉協議会本来の役割・使命であり、地域に根差した事業展開を図ることが、「民間組織と公共性」を兼ね備えた社会福祉協議会の特性です。「介護予防・日常生活支援総合事業」の構築を軸として、次の事業を進めていきたいと考えます。

(1) 地域に根差した組織の特性を活かし、総

合相談・生活支援体制の強化を図る。

\*生活支援体制整備　～住民ニーズ、福祉課題の明確化及び住民活動の推進を図る為、福祉活動専門員機能を強化したコーディネーター活動を、行政、協議体構成員、関係機関と共に行い、実態把握とネットワーク化に努める。

\*安心カード設置　～在宅生活を送る要援護状態にある方の実態調査を行い、福祉台帳の整備を図る。緊急情報キット記載内容の更新も含め、訪問活動を定期的にを行う。

\*外出支援　～閉じこもりを予防し、生活に必要な社会との繋がりを保つための取り組みを行う。

\*移動支援　～様々な事情により公共交通機関による移動が出来ない方へリフト付き車両を使った移動サービスを行うと共に、支援が必要となる方へのサポートを行う。

\*ケアマネジメント　～介護予防給付対象者、基本チェックリスト該当者への通所、訪問、その他サービスマニ調整支援、ケアプラン作成を行う。

(2) 在宅生活を送る上で必要となる経済基盤の安定化、分野をまたいだ横断的な相談支援や権利擁護の推進等、公益活動の強化を

図る。

- \*日常生活自立支援 〓 日常生活の心配事、困り事の相談を受けながら、福祉サービス利用手続きや日常生活費の管理をサポートする。
- \*成年後見活動 〓 家庭裁判所の審判に基づき、社会福祉協議会が法人として成年後見人等（後見人・保佐人・補助人）の業務を行う。
- \*愛情資金貸付 〓 相談、受付、申請業務を行い、経済面でのサポートにより生活の立て直しを図る。
- \*除雪費助成 〓 在宅生活を送る上で必要となる除雪費の一部を助成する。
- \*歩行杖貸与 〓 安心して外出するためのツールとして、歩行杖とアイスピックの無償貸与を行う。
- \*共同募金 〓 計画的な福祉活動への理解と協力を募り、共助活動の一環として全町民に向けた取り組みを行う。
- (3) アウトリーチを徹底し、対象や地域特性に応じた切り口で、地域住民等の地域コミュニティへの参加環境づくりを図る。
- \*普及啓発 〓 相互理解を深めるための研究会、講習会、イベント活動を行う。
- \*サロン交流 〓 地域の居場所づくりを推進し、住み慣れた生活圏内における活動促進を図る。
- \*福祉教育 〓 町内小・中学校において、福

祉活動を身近なものとして捉えられるような教育機会を提供する。

- \*広報活動 〓 紙媒体、ホームページ、SNS等を活用した情報発信と、啓蒙活動を行う。
- \*ボランティア育成 〓 生きがいづくりや、住民主体の支え合い活動の担い手育成を行う。既存のボランティア組織や支え合い機能のネットワーク化を図る。
- \*福祉団体支援 〓 老人クラブ、母子寡婦会、身体障害者福祉協会等への活動支援を行う。
- (4) 道社協・近隣社協との組織連携を活かし、大規模災害と防災への対応強化を図る。
- \*災害時支援 〓 ボランティアセンターの設置、運営など、緊急支援活動を行う。避難者対応や安否確認作業を町と連携して行う。
- (5) 地域福祉活動拠点として、ふれあい福祉センターを有効活用する。
- \*一般浴解放 〓 銭湯・温泉等の入浴施設がない町にとって、ふれあい福祉センターの一般浴を高齢者に限らず、解放していく。
- \*空き部屋利用 〓 町内会会合や、町のあらゆる団体・個人に有効利用してもらおう。
- \*サークル活動 〓 住民主体による自主サークル活動での利用を支援する。



今年度より「ミニデイウサパラ体操」を開始しました。

住み慣れた地域で自分らしい生活を営むことができるように、生活機能の維持または向上を目指す介護予防のための体操教室です。単に体を動かすだけではなく、脳トレや口腔機能向上など生活機能維持向上に必要なプログラムを行っています。利用等に関して、これまでと変更点がありますので詳細は社会福祉協議会までお問い合わせください。

# 平成30年度 赤い羽根募金



大口募金 1,000円  
32戸 32,000円

桑原 理容院  
渡辺 時計店  
大楽 商店  
八重 榎美粧院  
溝口 商店  
森モータース  
穴戸 直司  
行天 勝美作  
佐藤 利幸一  
澤口 野正晃  
浜野 山藤奈美  
下佐 小杉山藤宏  
佐松 重村植吉  
吉渡 細柳成東  
海小 中 小 柴 大

大口募金 2,000円  
32戸 64,000円

富士 巴斯(有)  
伏見 青果(有)  
千葉 商店  
松田 畜産(有)  
喜茂 別社  
味の 三喜  
牧場 タカラ屋  
峠の 茶具  
野建 庚一  
佐城 武良  
池岡 辰恭  
村口 内木勝史  
々々 山地山 将己  
田藤 昌英  
原原 山屋元熊  
秋丸 大小菊  
森林

伊藤 喜三郎  
鷹 羽 保 夫  
匿 名

大口募金 3,000円  
25戸 75,000円

ローソン喜茂別店  
北海道エネルギー喜茂別中央店  
藤田 菓子舗  
増田ドライブイン  
(有)ワールド交通  
梅津クリーニング店  
三幸 食堂  
喜茂 別齒科  
越後 村俊典  
内田 島忠久  
細輪 松菅戸高  
塩松 越菊石  
石田 小田

大口募金 10,000円  
7戸 70,000円

後志建設工業(株)  
菊地商店(株)  
クレードル興農(株)  
JAようてい喜茂別支所  
富田工務店  
北海信用金庫喜茂別支店  
(株)日野浦建設

大口募金 5,000円  
22戸 110,000円

北海建業(株)  
喜茂別町商工会  
喜茂別自動車工業(有)  
梅沢設備工業(株)  
愛和の里きもべつ  
(株)羊蹄フラワー  
三野農機(有)  
山本洋品店  
(有)表谷電気  
ふじ歯科クリニック  
富士見自動車工業  
後志総合管理(有)  
北禅寺  
(株)日道建設運輸  
喜茂別北自運輸(有)  
丸協建設林業(株)  
セブンイレブン喜茂別町店  
金恭範  
池田正宏



喜茂別中学校



喜茂別小学校



鈴川小学校

**窓 口 募 金**  
10件 20,927円

喜茂別郵便局	3,623円
農村環境改善センター	310円
セブンイレブン喜茂別町店	3,485円
ローソン喜茂別店	1,808円
セイコーマート喜茂別店	414円
Aコープようてい	437円
喜茂別町役場	2,166円
郷の駅 ホッときもべつ	1,724円
喜茂別町立クリニック	311円
ふれあい福祉センター	6,649円

**そ の 他**  
8件 135,577円

サッポロビール会	10,000円
(株)ビジネスサポート	5,000円
老人クラブ連合会 P・G部	11,651円
夏まつり(ポップコーン販売)	8,150円
ふれあいバザー	40,030円
ふれあいカフェ	20,000円
ふれあい映画鑑賞会	12,250円
自販機売り上げ	28,496円

**赤い羽根合計**  
**757,906円**

---

**歳末助け合い合計**  
**147,600円**

中里	10戸	3,000円
福里	9戸	2,700円
共栄	7戸	2,100円
鈴川	50戸	15,000円
金山	2戸	600円
御園	9戸	2,700円
上尻別	10戸	3,000円
尻別	14戸	4,200円
知来別	3戸	900円
福丘	3戸	900円

**学 校 募 金**  
3校 20,502円

喜茂別小学校	6,323円
喜茂別中学校	7,292円
鈴川小学校	6,887円

**戸 別 一 般**  
697戸 229,900円

幸町1	11戸	3,300円
幸町2	46戸	13,800円
末広町	60戸	18,000円
旭町	50戸	15,000円
本町	83戸	24,900円
大町1	100戸	30,000円
大町2	98戸	50,000円
緑町	46戸	14,000円
相川	7戸	2,100円
留産	12戸	3,600円
比羅岡	16戸	4,800円
伏見	18戸	5,400円
栄	9戸	2,700円
双葉	13戸	3,900円
上壮	11戸	3,300円

**歳末支援金配分事業**

身体・知的・精神障がい者	13件	39,000円
老人単身世帯	57件	171,000円
母子・父子世帯	4件	12,000円
在宅介護世帯	2件	6,000円
地元福祉施設	2件	100,000円
合計	78件	328,000円

平成30年度赤い羽根共同募金配分金は、501,406円 北海道共同募金会より配分され、

- ・高齢者福祉活動
- ・障がい者福祉活動
- ・児童福祉活動
- ・歳末助け合い事業
- ・母子・父子福祉活動
- ・福祉育成・援助活動

に使われます。

社会福祉の事業資金として、次の方々からご寄付いただきました。  
温かい善意に心から感謝申し上げます。

(敬称略)

年 月 日	寄付者ご芳名	金 額	備 考
平成29年12月7日	北海道歌旅座	155,000円	チャリティーコンサート収益の一部
平成30年1月17日	藤原 ハナ子	100,000円	福祉事業推進のため
平成30年2月5日	本間 環	30,000円	福祉事業推進のため

# ふれあいカフェやっています

ふれあい福祉センターでは、毎週金曜日（10：00～12：00）**ふれあいカフェ**を実施しています。個人のみならず、万歩計の歩数を集計して健康維持を図るグループや、ふまねっと参加後利用していただいています。

今後は、サークル活動や創作活動をされているグループの作品展示や、医療・福祉専門スタッフによる総合相談の窓口としても活用していただけたらと思います。



メニュー	
コーヒー (ホット・アイス)	50円
お菓子	50円
コーヒー &お菓子	100円



## 社会福祉協議会の活動は 「皆様方会員と会費制度」で支えられています。

- ◆社会福祉協議会（社協）は、社会福祉法に基づき市町村ごとに設置され、地域の実情に応じた福祉を増進することを目的とした社会福祉法人の民間団体で、民間組織の自主性と、住民や社会福祉関係者に支えられた公共性という二つの側面を持っています。
- ◆社協の運営資金は、住民のみなさんからの会費（一般会費、特別会費）や寄付金、共同募金会からの配分金などがあります。  
また、社協で実施する福祉サービスや各種事業に対し公共性という側面から、町からの補助金や事業受託金を受け、社協運営の財源としています。
- ◆少子高齢化により、喜茂別町でも一人暮らしや支援が必要な高齢者などが増えていますが、支援を求める方々が安心して暮らせ、誰もが住み良い町にするための福祉活動に、会費を活用します。

..... ご理解とご協力をお願いいたします。.....

●●● 特別会員を随時募集しています。（一口2,000円から） ●●●

詳細は、喜茂別町社会福祉協議会までお問い合わせください。